

1. 科目名 (単位数)	幼児教育学特論 (2単位)	3. 科目番号	SJMP5312
2. 授業担当教員	岡野 雅子・和崎 光太郎		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし	履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	<p>教育という営みは何かの原点に戻り、幼児教育の思想・歴史を基本に幼児教育の構造理解を深め、戦後日本における幼児教育の実態を把握した上で今後の幼児教育のあり方について探求する。</p> <p>まず現代の幼児教育が目指すもの、及び教育学とは何かという原理を理解し、西洋幼児教育思想の流れを概括する。次いで、わが国の幼児教育史を今日的課題を視野に取めた上で理解し、戦後の幼児教育の広がりを社会的視点から把握する。以上の学習の上で、最後に「社会の中の幼児教育」という視点から、現代社会における幼児教育の特質を捉え、「環境を通した保育」という基本原理に立ち返り、幼小接続を視野に収めつつ今後の幼児教育のあり方を検討する。</p>		
8. 学習目標	<p>①教育学の基本を習得する。</p> <p>②幼児教育を学ぶものの基礎知識としての西欧及び我が国の幼児教育史の流れを理解する。</p> <p>③戦後日本における幼児教育の展開を理解し、どのような社会的背景をもとにどのような幼児教育が求められてきたのかを考察する。</p> <p>④近年求められている、義務教育の基礎としての幼児教育のあり方について考察する。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1 教育思想家の幼児教育の基本理念とそれらの現代幼児教育への影響</p> <p>課題2 現在の幼児教育に至るまでの歴史的変遷</p> <p>課題3 幼児教育と就学前教育の違い</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 「幼稚園教育要領」(平成29年告示)・「保育所保育指針」(平成29年告示)・「幼稚園教育要領解説」(平成30年3月)</p> <p>民秋言ほか編『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』萌文書林、2017年</p> <p>【参考文献】 森重雄『モダンのアンスタンス 教育のアルケオロジー』ハーベスト社、1993年</p> <p>小笠原道雄『フレーベルとその時代』玉川大学出版部、1994年</p> <p>倉橋惣三『幼稚園真諦』フレーベル館、2008年</p> <p>倉橋惣三『育ての心 (上)・(下)』フレーベル館、2008年</p> <p>広田照幸『ヒューマニティーズ 教育学』岩波書店、2009年</p> <p>今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2009年</p> <p>松島のり子『「保育」の戦後史』六花出版、2015年</p> <p>松島のり子『保育の環境と領域「環境」の関係に関する一考察』『人間発達研究』お茶の水女子大学、第31号、2016年</p> <p>汐見稔幸ほか『日本の保育の歴史』萌文書林、2017年</p> <p>宍戸健夫『日本における保育カリキュラム』新読書社、2017年</p> <p>太田素子・湯川嘉津美編『幼児教育史研究の新地平 上巻』萌文書林、2021年</p> <p>レジュメ等の資料はその都度配布する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1 幼児教育の思想・歴史を理解できているか</p> <p>2 現在の幼児教育を歴史的背景との関連でとらえているか</p> <p>3 レポート作成において、文献の引用、用語の使用、論旨の展開が適切か</p> <p>○評定の方法</p> <p>レポート内容 (理解度、思考力) 3回の課題レポート 各20%</p> <p>最終レポート (独自の問題選択にみられる事実の認識の明確さと見解の表現の的確さ) 40%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>日頃から子どもの問題に関心を持ち、幼児の特性を理解し、幼児の立場から状況を捉える姿勢をもつこと、また、自分なりの見解を持つと共に、他者の意見や立場から学ぶ柔軟な態度を期待したい。</p>		
13. オフィスアワー	<p>後日通知</p>		
14. 学習の展開及び内容	<p>【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】</p>		
1. テーマ	<p>現行の「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の構造</p>		
【学習の目標】	<p>「幼稚園教育要領」(以下、「教育要領」)および「保育所保育指針」(以下、「保育指針」)について構造的に把握する。</p>		
【学習の内容】	<p>「教育要領」および「保育指針」を熟読し、両者のつながり及び小学校との接続を踏まえて、キーワードを中心に全体像を理解する。</p>		
【キーワード】	<p>教育 保育 養護 環境 3つの資質・能力 10の姿 保幼小連携 保幼小接続 カリキュラム</p>		
【学習の課題】	<p>(1) 現行の「教育要領」・「保育指針」の特徴はどこにあるのか。</p> <p>(2) 保幼小接続について現行の「教育要領」・「保育指針」はどのように対応しているのか。</p>		
【参考文献】	<p>「幼稚園教育要領」(平成29年告示)・「保育所保育指針」(平成29年告示)</p> <p>民秋言ほか編『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』萌文書林、2017年</p>		
【学習する上での留意点】	<p>告示を、他箇所および関連法令とのつながりを把握した上で理解するよう努めること。</p>		
2. テーマ	<p>教育学とは何か</p>		
【学習の目標】	<p>教育学の構造を、概念の把握および歴史的な経緯に基づいて、理解する。</p>		
【学習の内容】	<p>主にレジュメを用いて、教育の概念史を概略的に理解し、教育学関連法令を参照しながら、教育学の構造を多面的に学習する。</p>		
【キーワード】	<p>教育 教育学 教養 和製漢語 教育基本法 学校教育法</p>		
【学習の課題】	<p>(1) 教育とはいかなる概念であるのか。</p> <p>(2) 教育学はどのような歴史的・社会的背景のもとに成り立っているのか。</p>		
【参考文献】	<p>森重雄『モダンのアンスタンス 教育のアルケオロジー』ハーベスト社、1993年</p> <p>広田照幸『ヒューマニティーズ 教育学』岩波書店、2009年</p>		

	<p>【学習する上での留意点】 自分の「あたりまえ」が何を根拠に、どのような理由で構築されたのかという視点を持ち、学問する姿勢を身に付けること。</p>
3～6 テーマ	<p>西欧の幼児教育思想史</p>
<p>【学習の目標】 現代に強い影響を及ぼしている主な幼児教育思想を理解する。</p> <p>【学習の内容】 主にレジュメを用いて、主な西洋幼児教育思想史家の思想を、歴史的・社会的背景及び現代幼児教育とのつながりのもとに、学習する。</p> <p>【キーワード】 ルター コメニウス ジョン・ロック ルソー ペスタロッチ ロバート・オウエン 性格形成学院 フレーベル キンダーガルテン マーガレット・マクミラン デューイ エレン・ケイ モンテッソーリ レッジョ・エミリア</p> <p>【学習の課題】 (1) 子どもを対象とする学校教育は、いかなる歴史的背景のもとに誕生したのか。 (2) コメニウス及びルソーの教育思想の歴史的意義は何か。 (3) ペスタロッチ以降の幼児教育思想はどのように変遷し、現代に生きているのか。 (4) フレーベルの教育思想及びフレーベル運動について理解できているか。</p> <p>【参考文献】 小笠原道雄『フレーベルとその時代』玉川大学出版部、1994年 今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2009年 太田素子・湯川嘉津美編『幼児教育史研究の新地平 上巻』萌文書林、2021年</p> <p>【学習する上での留意点】 現代日本の幼児教育は複数国の思想・システムを融合して成立していることを前提に、思想やキーワードを単に人物と関連付けて覚えるのではなく、歴史的背景および現代日本とのつながりにおいて理解すること。</p>	
7～10 テーマ	<p>近代日本の幼児教育史</p>
<p>【学習の目標】 我が国の幼稚園、保育所の成立過程から、現在の幼稚園、保育所問題のもつ根本的課題を考える。特に、倉橋惣三の保育論を理解し、現在の保育実践への影響と課題を考察する。</p> <p>【学習の内容】 (1) 近代日本における教育政策と幼稚園の成立・発展過程を理解できているか。 (2) 近代日本における保育所的保育施設の成立・発展過程を理解できているか。 (3) 倉橋惣三の保育思想及びその思想が誕生した歴史的・社会的背景を理解できているか。</p> <p>【キーワード】 関信三 小西信八 中村五六 倉橋惣三 生活 誘導保育 城戸幡太郎</p> <p>【学習の課題】 (1) 幼稚園と保育所の性格の違いを歴史的に理解する。 (2) 我が国の子育ての伝統と初期の幼稚園、保育所の社会的役割及び保育内容との関連を考察する。</p> <p>【参考文献】 倉橋惣三『幼稚園真諦』『育ての心(上)・(下)』フレーベル館、2008年 汐見稔幸ほか『日本の保育の歴史』萌文書林、2017年 宍戸健夫『日本における保育カリキュラム』新読書社、2017年 太田素子・湯川嘉津美編『幼児教育史研究の新地平 上巻』萌文書林、2021年</p>	
11～13 テーマ	<p>戦後から高度経済成長期までの幼稚園・保育所の普及と地域差</p>
<p>【学習の目標】 急速に広まった幼稚園・保育所のありようと地域差を、今日的課題のもとに理解する。</p> <p>【学習の内容】 戦後における幼稚園の法令上の位置づけ、および保育所の制度化および法令上の位置づけを学習し、それぞれが高度経済成長期にかけてどのように普及したのかを把握する。</p> <p>【キーワード】 制度化 幼保二元体制 ベビーブーム 経済成長</p> <p>【学習の課題】 (1) 戦後の幼保二元体制の成立について、現在の幼保一元化の展開を史的に把握する。 (2) ベビーブームや経済成長といった社会環境の変化が幼児教育に与えた影響を考察する。 (3) 戦後の幼稚園・保育所の普及においていかに地域差があったのかを理解する。</p> <p>【参考文献】 松島のり子『「保育」の戦後史』六花出版、2015年 民秋言ほか編『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』萌文書林、2017年 汐見稔幸ほか『日本の保育の歴史』萌文書林、2017年 宍戸健夫『日本における保育カリキュラム』新読書社、2017年</p> <p>【学習する上での留意点】 教育はただそれだけで成り立っているのではなく、社会状況の変化に大きく左右されることを念頭に置いて学習・考察すること。</p>	
14～15. テーマ	<p>保幼小接続を念頭に「環境を通した保育」を探究する</p>
<p>【学習の目標】 「環境を通した保育」がどのような社会的・思想的背景を持ち、どのような経緯で現在に至ったのかを理解し、保幼小接続を念頭に置いた「環境を通した保育」を提案できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 下記の参考文献をもとに、「環境」概念がどのように告示に現れ、それがどのような機能を有しているのかを学び、保幼小接続、特にアプローチカリキュラムを念頭においた「環境を通した保育」のあるべき姿を探究する。</p> <p>【キーワード】 環境 主体 環境構成 環境の再構成 自然 安全</p> <p>【学習の課題】 (1) 「環境を通した保育」はいつから、なぜ必要とされてきたのか理解する。 (2) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」における「環境」とはいかなる概念なのか理解する。 (3) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」における「環境」はいかなる機能を有しているのか理解する。 (4) アプローチカリキュラム上の「環境を通した保育」のあるべき姿を提示する。</p> <p>【参考文献】 松島のり子「保育の環境と領域「環境」の関係に関する一考察」『人間発達研究』お茶の水女子大学、第31号、2016年 「幼稚園教育要領」(平成29年告示)・「保育所保育指針」(平成29年告示)・「幼稚園教育要領解説」(平成30年3月) 民秋言ほか編『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』萌文書林、2017年</p> <p>【学習する上での留意点】 「環境」概念の分析を進める上で、常にそれが実際の保育とどのように関連しているのかということに意を用いること。</p>	